

令和3年度岡山市基本政策審議会会議録

令和4年2月7日（月）

1 開会

○司会 お待たせいたしました。定刻が参りましたので、ただいまより令和3年度岡山市基本政策審議会を開催いたします。

開会に当たりまして、大森市長からご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さん、おはようございます。岡山市長の大森雅夫です。

この近々新型コロナウイルスのオミクロン株が猛威を振るっています。この日曜には岡山市は870人を超える感染者が出てしまいました。我々としては感染対策に意を用いているところですが、非常に感染力が強いもので、このような状況になっております。ただ、一方で3回目のワクチン接種、全国的には非常に遅れているということが言われておりますけれども、我々としても順風満帆とまではいきませんが、高齢者の4割程度、今まで発送した4割程度の方に打っていただいておりますので、これから次第に3回目接種も進んでいくと思います。重症化リスクの高い方に対する感染というのが弱まってくるのではないかと期待をしているところでもあります。これからも感染対策に意を用いるとともに、落ち込んできた経済、そして社会生活への対応をきちっとやっていきたいと思っております。

それから、私ごとではございますが、昨年10月に選挙がございました。おかげさまで当選をさせていただきました。各報道機関、そして様々な方のお話をお聞きいたしますと、2期8年間やってきた政策そのもの、根本的なものについてはご理解をいただいているということではあります。ただまだブラッシュアップをしなければならない、そして我々がやってきたものを正しく市民の方にお伝えをしていかなければならない、こういったことが役割として言われているところでもあります。そういう意味では、今後も慢心することなく、様々な我々がやっていることの政策をブラッシュアップして、また新たな市民にとって有益な施策を行っていききたいと思います。そういう意味では、この基本政策審議会が我々の基本的な政策についてご意見を言っていただく、そういう場でございます。今日も

我々の根幹的な仕事ぶりをお示しすることになっているわけではありますが、どうか忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。今日はよろしく申し上げます。

3 新任委員の紹介

○司会 本日は委員改選後初めての開催となり、6名の方々が新たに委員としてご就任いただいておりますのでご紹介いたします。お名前をお呼びいたしますので、一言ご挨拶いただきたいと思います。

岡山市連合町内会 副会長 祇園 茂 様。

○祇園委員 はい。連合町内会の祇園でございます。今回初めてということで中身がよく分かっておりません。ただ、岡山市にしてほしいこと、我々が望んでいることはいろいろあります。その辺も、今市長が言われたように忌憚のない意見ということなので、言いたいことを言わせてもらいたいと思います。よろしく願いいたします。

○司会 岡山大学大学院 教授 齋藤 信也 様。

○齋藤委員 齋藤と申します。私の所属します岡山大学の大学院保健学研究科は学部でいうと医学部にあたります。私自身医師免許は持っていますが、あまり医者としては役に立っておらず、主に研究と教育のほうをしております。どうぞよろしく申し上げます。

○司会 岡山商工会議所 副会頭 高谷 昌宏 様。

○高谷委員 高谷でございます。岡山商工会議所の今副会頭を担当させていただいております。平素本当に岡山市の皆様には大変まちづくり、また経済界に対していろいろご配慮いただきまして、心より御礼申し上げたいと思います。私も初めてでありますので、経済界の立場でしっかりと発言をさせていただければと思っております。今後ともよろしく申し上げます。

○司会 岡山大学大学院 教授 田中 共子 様。

○田中委員 岡山大学の田中共子でございます。専門は社会心理学です。人を見る目と社会を見る目をつなげていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○司会 岡山市連合婦人会 理事 西田 郁子 様。

○西田委員 岡山市連合婦人会の西田と申します。女性の立場から何か政策にまつわることがございましたらご意見を申しあげたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会 くらしき作陽大学 教授 福島 治子 様。

○福島委員 くらしき作陽大学の福島と申します。現在は保育士、そして幼稚園教員、小学校教員、学生の育成に努めておりますけれども、もともと中学校教員で教育行政等の経験もございます。そういった経験等も踏まえながらご意見を申し述べさせていただけたらと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

なお、本日は山下委員がご都合によりご欠席されておりますが、基本政策審議会設置条例に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、本審議会設置条例により、会長が議長となることになっておりますので、これからの議事運営は阿部会長にお願いいたします。

4 副会長の選任

○阿部会長 はい。皆さん、おはようございます。会長を仰せつかっております阿部でございます。所属が瀬戸町にございます環太平洋大学に変更になっておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、新任の委員の皆様方、よろしくお願いいたします。

会議次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。

まず、副会長の選任でございます。

このたびの委員の改選に伴いまして、副会長の選任が必要となっております。本審議会設置条例第5条第2項によりますと、委員の互選により副会長を定めることになっております。この副会長の選任についていかがいたしましょう。ご意見ございましたら、お願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 はい。特にないようでしたら、私から提案をさせていただきたいと思えます。第6次総合計画の最初の策定から関わっておられ、今までの市政の動きをよくご存じである杉山委員様を副会長に推薦したいと思えますが、いかがでしょうか。

ご異論ございませんか。

〔拍 手〕

○阿部会長 はい。ありがとうございます。それでは、皆様方にご賛同いただきましたので、副会長は杉山委員様にお願いしたいと思えます。

それでは、杉山副会長、正面の副会長席にご移動をお願いしたいと思えます。

それでは、杉山副会長から一言ご挨拶をお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

○杉山副会長 ただいまご指名いただきました杉山でございます。たまたま第6次の総合計画からずっと関わらせていただいて、ひょっとすると全く新しい方のほうがいいのかなとは思ったのですけれども、最初から関わらせていただいて、最後のところをちゃんと見届ける役、それから次に繋げていくということで、微力ではございますけれども一生懸命やりたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは次に、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして、事務局から説明をお願いいた

します。

○事務局 本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○阿部会長 はい。本日の審議につきましては特に支障になる事由はないと思われまので、本会議は公開とし、傍聴を許可したいと思います。委員の皆様、いかがでございしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 はい。それでは、異議がないようですので、本会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしく願いいたします。

5 協議

(1) 岡山市の主要施策について

○阿部会長 それでは、早速でございますけれども、協議に入らせていただきたいと思います。本日の協議事項、1番目が岡山市の主要施策についてということでございます。

事務局から説明をお願いしたいと思います。

○政策局長 はい。それでは、お配りしている資料3に沿ってご説明をさせていただきます。

まず、2ページをお願いいたします。

このグラフは市内の新規感染者数の推移をまとめたものでありまして、第6波は重症者数こそ多くないものの、感染者数は第5波を大きく上回っております。ワクチン接種については積極的に前倒しを進めておりまして、3回目接種の人口当たり接種率はまだ決して高くはないものの、指定都市20市の中では最も高くなっております。

3ページをお願いいたします。

岡山市のコロナ対策の全体像になりますが、これまで感染防止対策、事業者支援、市民

生活支援の3つの柱に沿って対策を総合的に講じてきております。1点目の感染拡大防止としては、PCR検査の拡充、保健所体制の強化、ワクチン接種などに取り組んできたところです。2点目の事業者支援としては、中小企業等への支援金やスマホ決済ポイント還元事業のほか、飲食店の感染防止対策への補助金など、影響を受ける事業者への支援を行ってきております。3点目の市民生活支援としては、昨年度1人10万円の定額給付金を支給したほか、生活困窮世帯への10万円給付、その他文化芸術活動の再開なども支援してきたところです。これらの対策で総額1,300億円以上を予算計上してきております。

4ページをお願いいたします。

4ページから10ページまでは、岡山市の総合計画に掲げる3つの将来都市像に沿った形で、市の施策をトピック的にご紹介させていただいております。

まず、将来都市像Ⅰの経済・交流都市ですが、都心のまちづくりについては、資料左側の路面電車の駅前広場乗り入れや県庁通りの1車線化、下石井公園の芝生化実験、さらに路線バス、路面電車の高齢者等の運賃割引も始めており、その他民間の再開発プロジェクトも次々と生まれてきております。また、資料右側の旭川河畔では岡山城の改修や芸術創造劇場の整備などに取り組んでおり、特に劇場は来年9月の開館に向けて、表町商店街など民間も参画した動きが広がってきております。

5ページをお願いいたします。

まちなかのプロジェクトの主なものが抜粋されたものを参考までにつけております。

6ページをお願いいたします。

地域の振興につきましては、ハード、ソフトの両面から取組を総合的に進めております。1の経済・産業の振興としては、儲かる農業の実現に向けて、農産物のブランド化や担い手の確保などに取り組んでいるほか、外環状線や中環状線の整備、さらには国道2号線の渋滞緩和などにも取り組むことでエリア価値の向上を図っております。2番の歴史・文化の継承としては、造山古墳の立体的復元整備、万富の東大寺瓦窯の保存整備、さらには高松城址の資料館のリニューアルなどに取り組むなど、それぞれの土地に歴史を重ね合わせることで地域を魅力的なものにしてまいります。3番の生活機能の維持向上としては、交通不便地域でのコミュニティバスの運行や犬島への光ファイバーの整備を進めているほか、生活道路の整備、通学路の安全点検なども行っております。

7ページをお願いします。

今ほどの地域振興関係の事業が地図にプロットされたものを参考までに添付してござい

す。

8ページをお願いいたします。

将来都市像Ⅱの子育て・教育都市になりますが、待機児童対策については、平成28年に待機児童の定義を実態に合わせて変更し、その後幼・保無償化による需要の増加などもありましたが、保育所の整備や保育士の処遇改善に取り組んできた結果、右側のグラフのとおり、待機児童は大幅に減少してきております。

9ページをお願いいたします。

教育については、岡山市総合教育会議で議論した第1期教育大綱に基づいて、学力の向上に数値目標を掲げて取り組んだ結果、全国平均レベルにまで学力が向上しており、子供たちがこれからの時代を生きていくために必要な考える力の基礎を築くことができたところではあります。今年度からの第2期教育大綱では、これまでの取組の成果を踏まえ、個性や選択、挑戦をキーワードとして自分の考えを整理して伝えることなどに関する新たな数値目標を掲げ、さらに取り組んでいくこととしております。

10ページをお願いします。

将来都市像Ⅲの健康福祉・環境都市については、冒頭の新型コロナ対策も含まれますが、このページは防災・減災対策について書いております。平成30年の西日本豪雨も踏まえて、ハード、ソフト両面からの対策を推進しております。ハード対策としては、下水道整備の重点地区を増やし、今保と白石のポンプ場整備を同時並行で行うとともに、老朽化した下水道の管渠の更新などにも取り組んでいるところです。ソフト対策としては、自主防災組織の結成促進に取り組んだ結果、結成率が3年前の6割台から9割台の半ばまで大幅に改善しております。

あと、ページが飛びまして、22ページ。この22ページ以降は、参考資料ということで昨年度までの前期中期計画の主な取組をまとめておりますので、ご参考までに添付させていただきます。

以上、非常に雑駁な説明で恐縮ですが、私からは以上でございます。

○阿部会長 はい、どうもありがとうございました。ざっとではありますけれども、岡山市の施策の状況につきましてご説明いただきました。

先ほど市長から3期目に入ったということのご説明がございましたけれども、昨年6月に岡山市第6次総合計画の後期中期計画を策定されまして、それが執行されております。そ

の総合計画の都市像ということで1ページ目に書かれております将来都市像の経済・交流都市、それから第2番目が子育て・教育都市、それから将来都市像のⅢが健康福祉・環境都市ということで3つの都市像が掲げられておまして、それぞれについて後期中期計画が定められているわけでございます。それに今、異常な、といいますか、総合計画の昨年、一昨年の審議中には想定されていなかったこととして新型コロナウイルス感染症の深刻化ということが、これが起こっているということでもあります。大森市長の3期目が今本格的に始まっているということで、委員の皆様方にはこの将来都市像、それから新型コロナウイルス感染症対策、それぞれについてご専門の立場からご自由にご発言をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、順番に伺ってまいりたいと思いますけれども、新型コロナウイルス感染症対策に関しまして、最近の岡山市の取組等につきましてご意見ございましたらお願いしたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。

齋藤委員様、ご専門の立場から。

○齋藤委員 はい。それほど専門じゃないですが、ワクチン接種とか実務面では少しはお役に立っていると思います。後半の議題にも関係すると思うんですけど、岡山市はまさに政令指定都市ということで自前の保健所を持っていらっしゃいます。そこで、そうではない自治体に比べて、自分のところの保健所があることがこの新型コロナウイルス対策に対して何かメリットになった点があれば、今オミクロン株対策でそれどころではないかもしれませんが、第5波までの総括でも結構ですので、お伺いできたらと思います。

○大森市長 直接保健所を持っていないところとの比較っていうのは非常に難しい。この2年間ずっと保健所と一緒にやってきていますので、そういう比較は難しいんですけども、松岡保健所長が本当に医師として、また疫学にも強い、そういう立場から様々な指摘をしていただいています。例えば、近々でいいますと、学校で陽性者が出たときにどのくらい学級閉鎖の期間をすればいいとか、それを彼の立場から言っていただく。そして、今日来ていますけれども、感染症の担当局長も保健師であります。そういうそれぞれの専門的な知識を有してどういう対策を取っていけばいいか、それが密に相談ができる。この体制っていうのは非常にいいのではないかと。かつ、そういう面で今度は経済であったり社会生活も、直接担当からいろいろと話が聞ける。総合的に岡山市として決めて

いける。そういう面は、保健所を持っていない市にとってみると、県の保健所、県との関係、また社会生活は自らの判断をしなければならない。そういうところでの調整をしなければならないということに比べて、一体感を持ってできているっていうところは大きな違いではないかと思います。

○阿部会長 この新型コロナウイルスの話は、人の健康だけではなくて、我々の活動を制約しまして、経済社会的な影響、それから日常生活への影響というのが非常に大きいですけども、そういった立場から何かご発言いただけますでしょうか。

高谷委員様、いかがでしょうか。

○高谷委員 本当にコロナに対しては、大森市長をはじめ、岡山市から商工会議所を通じて色々な企業へのサポートをいただきました。本当に感謝申し上げたいと思っております。ただ、やはりもうコロナ3年目ということで、企業も相当今弱ってるような状況であります。当社の社員も何人かコロナにかかりまして自宅待機等々が初めて出ております。3月には企業もワクチン接種をする予定ではありますが、ワーカーが自宅待機を余儀なくされるということで、このあたりどういう対応をしようかと。これは行政にお願いすることでもあって、社内でもやっていかなければならないわけではありますが、これが大きな問題になってくると思っております。このあたりの対策も会議所、行政ともまた連携してどういうことができるのか考えていかなければならないと思っております。

以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございます。

市民生活につきまして何かご発言いただける方はおられますか。

○西田委員 本当に素朴な質問なんですけど、婦人会活動、そして栄養改善活動とか愛育活動がなかなか今までしっかりしていたのにできなくなっています。それが一番つらくて、今後コロナが落ち着いたときに皆さんがいろんな活動に参加してくださるかというのを一番心配しているのですが、市長さんどうしたらよろしいでしょうか。

○大森市長 西田さんがおっしゃったことは、みんな感じているんじゃないでしょうか。

客観的な基準が明確にあるわけではありませんから一つ一つ判断していかなければならない。我々も政府の専門家会合でのやり取りは常に注視しています。そこで出てきている、特に一番分かりやすいのは定量的な基準。イベントをやる場合の人数の制限であるとかそういうことについては明確にやらせていただいているのですが、それ以外のところは感染対策といっても3密を避ける、マスクをする、飲食ではできるだけしゃべらないようにする、そういったことを繰り返して言っているということで、多分様々な主催者の方は悩まれているのではないかと考えています。我々も一つ一つのイベントを相当悩んでいるところでありまして、岡山市が主催する場合でも関係者にいろいろ聞きながらこの会合をするかどうかというのを確認を取ったりしています。これは回答には全くならないんですけども、早く収束をさせていくということと、それからやはり今も絆を大切にしながら収束、ないしは第6波はしかるべきところで落ち着くでしょうから、その後そういうものを少しまた盛り返していくとか、こういうことをやりながらお互いの連帯感というのを維持していくしかないんじゃないかなと思います。阿部会長何かいい知恵がありましたら。

○阿部会長 いえいえ。私も久しぶりに大学に復帰してまいりますと、大学の授業なんかも全くでたらめの状態になっておりまして、どうしていいか分からないという、学生も不満だらけという状況でございます。これからいかにうまくマネジメントしていくかということを考えていかないといけないのかなと考えております。なかなかそのあたりで大森市長にも第6次総合計画に加えて、その上にさらに覆いかぶさって非常に難しい問題が関わってきているということではないかなと考えております。

○岡崎委員 最近我が社の論説の委員会の中で常に話題になっているのが、岡山県は学級閉鎖などになるとその高校名が出る、市町村になりますと小学校、中学校は子供の学校名が出ないという取扱いになっております。それで小・中学校、それから保育園の先生方も非常に気を遣っておられるような感じで、学級閉鎖という言葉もあまり使っておられないと聞いているんですが、県と市町村で対応をどのように分けられているのかとか、そのプライバシーの考え方のようなものがあればお聞かせ願えればと思いますが、いかがでしょうか。

○大森市長 実はこの問題は2年間ずっと常にありまして、我々の基本的なスタンスは、

公表については、これは法律に基づいて公表するということになっています。それで、法律の中に書いてあるのは、感染拡大防止の観点から公表するということになっていますので、したがって我々としても例えば夜の街といいますか、そこで感染が出たときに、完全に陽性者と接触した人がもうリスト化されているような場合はそのお店は出さない。しかしながら、リスト化されていなくて誰がそのときに来られたかが分からないというときはそのお店の名前を出すということを考えてやっております。基本的には学校も事業所も、感染拡大防止のために公表することが必要であればやるということをしていただいています。

ちなみに県というよりは、県北の市長さん方と話をしたときに、なかなか県北の市長は、岡山市長の理屈はよく分かる、法律上そう書いているのも分かるし、岡山市の対応自身は理解できるけれど、県北で名前を出さないということは周りの空気から見て、なかなかその対応をするわけにはいかないという話をされていました。そこで、我々と例えば県北の対応が異なっているというのはそのとおりでろうと思います。県としては、公表は保健所対応になりますから、保健所を有しない地域においては、今言った県北の市長さんの言葉を代弁する形で県は対応されているのではないかと考えております。地域によって若干差が出て、そこはやむを得ないのかなと思います。

○阿部会長 ほかに何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 もしないようでしたら、いつまでもこのコロナに振り回されてもいけませんので、他の将来都市像のⅠからⅢがございますけども、まず将来都市像のⅠの経済・交流都市の関連の施策につきまして、何かご質問、それからアドバイス等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○高谷委員 失礼いたします。高谷です。

今経済界の中でも大手の企業さんは海外進出を当然のようにされているわけですが、やはりこの人口減という中で、これから岡山の経済界、もっと言えば岡山には大手ばかりではなく中小零細が非常に多いわけですが、幾つか問題があると思います。

まず、第1に事業承継という部分で、これは今岡山市さんも去年からテスト的に事業承継に対しての少し補助金があったと思います。これは経済界、行政だけの問題ではないのですが、このあたりの対策を今後どうしていくのかということが一つ大きな問題になると思います。本当にいい会社、小さい、例えばお菓子屋さんみたいなどころもなかなかそこがうまくいってなくて、人のマッチングも含めてであります。廃業してしまうというのも非常に多いと聞いております。この辺の対策についてどう考えるのか。これは行政だけの問題ではないですが。

それから、一番最近私ずっと長年の中で、特に岡山県が企業誘致ということで結構いろんな企業を誘致しようということで動かれているのですが、岡山市も幾らか岡山の企業であつても増築とか何か新しいことをするためには補助金とかサポートをされていると聞いておりますが、やはり岡山の企業をどう発展させていくかということがこれから一番大きなポイントだと思っています。意外にどこの行政も企業誘致に対しては結構手厚くするわけですが、今岡山の企業をどうこれから発展させていくのかという部分がちょっと見えてこないと思っておりますので、このあたりについてもご見解をいただければと思っております。

もう一つ、この人口減の中で人材確保、今海外労働者を使おうということで、もちろんそれも必要にはなってくると思いますが、ひきこもりの問題、そういう方が結構いらっしゃると聞いております。大森市長もいつも言われているのですが、この教育というのもこれは経済界が放っておいてはいけないことで、教育のことは教育界に任せておけばいい、ではなくて、最終的には企業に就職をし、そこで労働するという環境づくり、これは連携していかなければならない。県外に大学に行く、これは男性も女性もそうですが、出られて本当に帰ってきてくれないという中で、いろんな方に聞くのですが、岡山に企業がないよねってよく言われるんですね。でも、岡山にいい企業ももちろんあるのですが、このあたりは高校生なのか、中学生なのか分かりませんが、やはり岡山というものをまだまだ子供たちが知らずに大学だけで出ていくという。このあたりを教育と経済界がもっと連携して何か仕組みをつくっていかないと、もちろん岡山にもいい大学はあるのですが、やっぱり大阪、東京に行ってそのまま就職してしまう。それで結婚してもう帰ってこないというちょっと悪循環になっているような気がします。

この3点、事業承継、それから企業誘致だけでなく岡山の企業へのサポート、それから人材についてご見解があればご質問させていただければと思いました。

以上です。

○大森市長 それでは、まずは事業承継の話ですけれども、これは全国的に見ても非常に大きな問題になっております。政令市の市長会議でも事業承継を一つ大きなテーマで取り上げて、経済産業省と折衝をいたしました。その結果、税制上の特典など大きく整理はできたと思うんですけれども、税制が整理されたら物が動くかといったらそういうことではない。實際上その事業を継続できないという経営者がいるときに誰にバトンタッチさせるのか。そのマッチングの問題だろうと思うのですが、1つは金融機関がいろいろと今動いている。商工会議所もそういう機能が多分あるのだろうと思っているのですが、我々行政でできることは、税制であるとか制度的なシステム、そういうシステムを構築するということところがまずは第一義的で、そこはある程度動いている。だから、次の商工会議所や金融機関、そういうところがどういう承継に関しての役割を果たすのか。その中で我々として果たす役割があるのであればぜひ積極的に対応していきたいと思っておりますので、それはまた協議をさせていただきたいと思っております。

次に、企業誘致ばかりじゃなくて、今ある岡山の企業をどう発展させるのかというところですが、確かに産業界の振興という3つのカテゴリーに多分分かれるんだと思うんですね。おっしゃったのが1つは企業誘致。そして今ある企業の発展。そして3つ目がまだ何もない形から起業化していく、いわゆるスタートアップ。この3つだろうと思うんですね。それで、スタートアップ機能に関しては、これは経済界も一緒になって今「ももスタ」というのをやっていますし、岡山大学も非常に熱心にやっています。中四国の中では数的には岡山は相当高いところに来ていると思うので、これもさらなる発展が、やれることがあればやっていかなければならないだろうと思っております。

また、今ある企業の発展というところで、高谷さんも今発言の中でさらっとおっしゃいましたけれども、現在稼働されている企業が新たな設備投資をする場合にもインセンティブをお渡しするような形にはさせていただいてるんですね。それについてはいろいろ、実際は批判もあったんですけれども、やらせていただいています。あとは行政としてどこまでどういうことができるのか。そこも経済界とやっぱり腹を割って話していくしかないのではないかと考えております。

3点目は、これは教育長にあとでバトンタッチさせていただきますけれども、これも今の高校生、大学生たちが岡山の企業を知らないということであれば、現在もやっています

けれども、岡山の企業と学生、大学生、高校生とのマッチング、それをより高めていく必要があるだろうと思います。

子供たちの教育については教育長から。

○菅野教育長 教育長でございます。

岡山市の小学校、中学校、幼稚園もそうなのですが、実は地域協働学校という取組を進めております。全国的にはこれはコミュニティ・スクールと言うんですけれども、地域の方々、保護者、これが学校運営に参画する、そういう取組でございます。したがって、その大きな目的としましては、地域の皆さんの考えていることが学校運営に反映するということでありますし、また子供たちはその地域に出て行ってしっかり地域の方と連携していくという取組も併せて行いますので、地域を愛するということにつながってまいります。そういった取組を小学校、中学校の段階でしっかり積み重ねていくことで地域を愛していく、そしてこれは難しいところでございますが、じゃあ岡山市にずっといけばいいということではないですけれども、いろんな形で岡山市に貢献できる人間を育てていくということを我々は大切に考えております。

以上でございます。

○高谷委員 ありがとうございます。もう一点、岡山は早島インター、岡山インターがあり、やっぱり岡山市というのは物流の拠点に相当なっています。プラス工業団地も今幾つかあるんですが、やっぱりどうしても土地の問題で、物流はまだできるんでしょうが、工業のほう結構いろいろ逼迫をしていると聞いております。その部分で岡山から出て遠うまちへ出て行かなければならないという話が非常に多いということでもあります。そういう部分で、これは今日市長のご発言というよりも、ぜひ早急にお答えをいただきたいのが、新しい工業団地を造るとか新しい物流センターを造るとか、今ちょっと僕が見ても何か一つまとまりにならずにばらばらいろんなところでできていて、これで本当にいいんだらうかと思うことがありますので、すぐの話ではないのですが、そういう岡山のこの利点を生かす、立地を生かすという部分で工業団地であるとか物流センター、団地とかそういうものもぜひ今後将来像の中にお入れいただければ非常にありがたいかなと思いました。

それと今日、教育長から今ご発言をいただいてありがたかったのですが、私が言うのも変ですが、今年が岡山市民の日10周年ということだそうであります。この岡山市民の日と

いうのも制定されたときに、やはり岡山市民が岡山市民でよかったと言われるためなんです。10年たってもあまり浸透していないということでもあります。ぜひこういうものをベースに、子供たちまた学生たちにも岡山のよさというものを何かお示しできたらいいきっかけになるんじゃないかなと思いますので、発言をさせていただきました。

以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございました。経済界からのご提案ということで収めておきたいと思います。

ほかに子育て・教育都市、その他の事項につきましてご発言も出たようであります。関係される委員の皆様方からご発言をいただければ。

○田中委員 どのテーマにも関わってくることだと思うんですけども、情報化が進んでいるというこの世の中の流れの中で岡山はどういうふうに対応していくのかなと思っています。資料の中にDXと確かにあり、そこを見ますと令和4年3月末までに計画を策定と書いてあるんですけども、もう既にいろんなことは進んでいるんじゃないかと思います。コロナ対応にいたしましても情報化と無縁なはずはなく、情報化をうまく使って乗り切るという発想はどうしても必要で、例えば大学も授業をかなりオンライン化しましたし、放っておいたら多分オンライン化はもっと先だったと思うんですけども、やむを得ず始めたものが定着して、それでやってみますとこれはこれで結構面白くて、じゃあ時空間を超えているんな教育の機会がつかれる。もっと外国と交流しようみたいな発想にもつながっていくわけです。だから、DXをどうやってうまく使い込んでいくのか。都市づくりもそうですし、コロナ対応も教育も全部関わってくると思いますので、どのようなビジョンなのかなっていうのをちょっとお聞きしたいと思いました。

私自身は自然が近いけれども都市環境もちゃんとある岡山というのを結構気に入っております。だからここに情報環境が揃えば、移住するとか自分のオフィスはこっちに移そうとか、そういった人を呼び込むケースにもできるんじゃないかなとちょっと期待したりするところなんです。そもそも情報化の場合は全部整備してから何かを始めるのではなく、ちょっとずつやってはちょっとずつ修正して少しずつ構築していくというのがこの産業の使い方のように聞いておりますので、そういった意味では今ある効果といいますか、これからの抱負といいますか方針のようなものがあればお聞かせいただければありがたいと思

ます。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。田中委員さんからのご提案の件でありますけど、協議事項の2番目の今後の課題のところでも市のほうから説明をいただいて、それで審議をすればと考えておりますので、この件はこの段階で収めさせていただいて、また後半にさせていただきますだけだと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

○赤木委員 都心まちづくりに関してお伺いしたいことがございます。

4ページ、5ページの辺りに現在進めておられる様々なプランについて書いていただいているんですけども、今現在県庁通りの1車線化が順調に進んでおり、それが駅前と旧城下町エリアを結ぶ動線とうたっておられますけれども、実際のところ柳川筋までになっているように見受けられます。果たしてこれから先、旧城下町エリアの回遊性の向上というところに今の県庁通りの1車線化がつながっていくのかどうか少し心配をしております。また、表町辺りにこの地図の中では大型商業施設があると書いてありますが、実際には閉店されているところもあったり、マンションなどはどんどんできていくようですけれども、大きなマンションがあっても近くには駐車場だけがあって、まちなかに人が歩いていない状況が生まれてしまうのではないかと、まちなかのぎわいをどう取り戻していくのかということに関してもう少し具体的なお話を伺いたいと思います。

それから、旧城下町エリアに関して、市有地を公園化するというプランが発表されたばかりだと思います。実際今プランに上がっている場所というのは史跡としても非常に意義のある場所だと思いますのでぜひ進めていただけたらと思うのですが、やはり旧城下町エリアの、例えば表町辺りからのアクセスということを考えると、かなり高低差とかもありますし、まだまだきちんと整備する余地が本当にたくさん残されているのではないかと考えております。

もう一つ、開発予定とされている地域に、土地に関して、歴史的に見ると宇喜多直家の築いたお城の跡地にあたる辺りだと思いますので、ぜひきちっとした発掘調査などもこれからの開発の中にしっかり位置づけていただけたらと考えておりますが、そういったことについてのプランがございましたらぜひお伺いしたいと思います。

○政策局長 旧城下町エリアの活性化についてお答えいたしますけれども、今年11月にリニューアルオープンする岡山城、それから来年9月にグランドオープンする芸術創造劇場など、旭川河畔において新たな動きが出てきております。この岡山城を中心とする旧城下町エリアについては、岡山の都市の成り立ちにおいても重要なエリアになっておりますので、岡山駅周辺エリアからの桃太郎大通り、県庁通りといった東西の都市軸、それに旧山陽道の南北の都市軸、これらを踏まえながら歴史、文化、回遊性、そういった観点の下でハード、ソフト両面からの取組を俯瞰的に展開して行って、にぎわいとゆとりの感じられる魅力的なエリアを創出していきたいと考えております。

それから、岡山城西の丸等の跡地整備についてもご質問いただきまして、こちらについては回遊性の向上、それからオープンスペースの確保といった視点の下で今年度中に整備の方向性を取りまとめまして、令和4年度にはサウンディング調査等で幅広く意見を伺った上で具体的な整備方針を取りまとめていきたいと考えております。

以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございます。よろしゅうございますか。

1kmスクエアということが商工会議所のほうから20世紀の終わり頃から言われているわけでございますけれども、それがようやく形が見えてきたというところかなという気がいたしております。そういう意味で3期目に向けて大森市長さんの手腕が問われているところであろうかと思っておりますので、しっかりと頑張ってくださいと思っています。

この件はこれで収めておきまして、子育て、教育の件で何か追加でご質問いただくことはございますでしょうか。

○福島委員 学力の面と、それから保育士の関係ですけれど、まず学力のことについては数値目標を持って学力を向上しようという形でいろいろと方策はあると思いますが、まず行政とかあるいは学校。学校というところで見れば、大きなポイントは3つではないかと思っています。

1つは教員の授業力。ここをしっかりと管理職であるとか、あるいはお互いに授業を見合うというようなお互いをブラッシュアップできるような素地をつくっていくことが必要であるということ。もう一つは全国学力・学習状況調査等について、これで順位を見て一

喜一憂するということは、極端な言い方をすればあまり意味がないと思っております、むしろどこに自分の学校の児童・生徒の課題があるのかとかそういったところをしっかりと分析をして、先生方がそれを共有して目標としてやっていく。

自分の経験を踏まえましても、全国学力・学習状況調査の結果を分析して、例えば「緑」と「縁」という漢字の識別ができてなかった子供が多いというときに、国語だけで頑張るのではなく、全ての教科でノートを写すときにそういったところもしっかりと神経を張り巡らせていこうとか、あるいは展開図にくぼんだところがあるっていうのであれば、数学の教員だけでなく美術あるいは技術・家庭科の教員がそういうところを取り扱うときに特に丁寧にするとか。

今回は記述式という問題のところもかなり出ておりますけれども、現場におりましたときにはそういったところもちろん子供たちが考えてそれを文字にするというのは非常に結構ハードルが高いところでありまして、学校全体でどうするかといったときに、3年生で山陽新聞の滴一滴、それを模写するというのを始めたときに、左側に逆に全文を写し出していく子供がいたりしてびっくりしたのですけれども、どうしたのと聞くと、手が汚れないからだ。それではとても意見も書けないし、できないってことに途中で気づいたみたいで前から書き始めましたけれども、やがてそういうことを積み重ねていくうちに、子供たちが朝の挨拶運動のときに時事問題を、ゲームの話とか前の日のテレビの話ではなく、お互いの対話の中に持ってきているという、そういうところも現れたりして本当に学力というのは点数だけのものではなく、実際に学校で学んでいることとかそういうことが実生活に結びついていく、そういうようなものを目指してやることも大切なのかなということで、教員が全て国語とか数学だけの教科の問題ではなく、課題を共有できて全校で取り組む。

あともう一つは、学力状況調査の中には家庭学習の時間が非常に少ないという現実がある。ここはちょっと家庭教育に手を入れるというのはなかなか難しいところもあるのですが、そういった部分についてもしっかりと啓発していかなければいけないのではないかなと思っております。

そして、行政の部分もそれと同じで、やはり学校としっかり課題はこういうところにあるということを共有しつつ、学校が実際にどういう取組をしているかというところを把握しながら予算化をしたりとか、あるいは施設的に必要なところは吸い上げていっていただければと思っております。今数字を見てもある程度改善傾向にありますので、この流れを

止めないという中で、私自身も現場にいたとき、こういうのを市で予算化していただけたらなと思っていて、似たようなことが予算化されたりしていますので、引き続きそういった形で進めていただければと思っています。

それから、もう一つ、保育士ですけれども、今、保育士の確保ということで非常にご尽力をなさっているというのはいろんな場面で伝わってくるのですけれども、幼稚園の先生方とか、あるいは今岡山型一貫教育の中で保・幼・小・中の管理職が集まって、その学区の子供たちの15年間に責任を持つということをやっていますけど、保育士の先生方、常に現場が大変だということで、中学校の校長先生からも問合せをいただきましたが、会計年度の保育士がなぜ集まらないのだろうかということがどうもあるようです。

それで、先輩の教員に聞きますと、実際に今までは割と公の募集が終わってから民間の保育所の募集があるという、以前には何かすみ分けがあったそうなのですが、現在は割と5月ぐらいから民間企業、大手企業型の保育所とか、早い時期からの採用が始まっていて、安定志向のある学生はむしろそちらのほうに興味を持ってきているという現実もある中で、比較的幼稚園、保育士の採用時期というのは小学校、中学校の教員よりもまだ合格発表が遅くて、会計年度はさらにそれよりも後というような現実があり、もう少し教員の数の確保でありますとか、あるいは質の向上ということを考えれば、そういった採用時期等も少し考える必要があるのかなということも思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○岡山っ子育成局長 保育士の関係ですが、会計年度の保育士が集まらないということは岡山市の場合、現実起こっている状況です。それは民間の処遇がよくなっているということの現れではあるのですが、そういったところをどう解消していくかということで、保育支援者を取り入れたり、ICT化で業務軽減を図るなどしながらいろいろな努力を重ねているような状況です。市全体の中でどう対応していきたいかもこれからも考えていきたいと思っています。

以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございます。

それでは、後半の今後の課題について、市のほうからまず簡単に説明をお願いしますでしょうか。

5 協議

(2) 今後の課題について

○福田局長 はい、承知しました。

資料3の11ページからお願いいたします。

11ページからは、市政の今後の課題のうち、グリーン、デジタル、大都市制度の3つをピックアップしております。

12ページをお願いします。

12ページからが1つ目の課題、脱炭素社会の実現に向けた検討状況を掲載しております。真ん中の緑囲みの部分ですが、2050年に二酸化炭素の実質排出ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を岡山連携中枢都市圏の13市町で行ったほか、倉敷市や商工会議所、大学なども加えたゼロカーボン研究会を新たに立ち上げて具体的な取組を検討するなどしています。また、下の青囲みの部分ですが、市長が指定都市市長会のまちづくり・産業・環境部会長を務めてきた中で温暖化対策に向けた連携宣言を行い、指定都市20市中19市でゼロカーボンシティ宣言を行ってもらったほか、国への提言活動なども行ってきたところで

13ページをお願いします。

このページは、提言活動の成果の一つでもあるのですが、環境省の来年度予算案に地域脱炭素移行再エネ推進交付金が200億円盛り込まれておりまして、全国で少なくとも100か所選ぶとされている脱炭素先行地域に岡山市もエントリーできないかどうか検討を始めているところです。

14ページをお願いします。

14ページからは、2つ目の課題、デジタル化に向けた検討状況を掲載しております。具体的な工程表も含めた岡山市独自のDX推進計画を今年度中に策定することにしておりまして、地域社会のDX、市民サービスの向上、行政事務の効率化を3本柱とする予定にしております。

15ページをお願いします。

1本目の地域社会のDXとしては、市が行ったスマホ決済ポイント還元事業でキャッシュレス決済が市民に広がったことだけでも大きな変化ですし、コロナの影響でリモートワ

ークを一度は経験した方が飛躍的に増えたことも大きな変化だと捉えておりますが、今後さらに農業を含む産業分野でのデジタル化をどのように推進していくのか、地域コミュニティの在り方をどう考えるのか、また卑近なところでは犬島への光ファイバーをどのように活用していくのか、さらに言えばこれまで様々な分野で解決できなかった課題についてデジタル技術で解決できないかといった視点で積極的に検討してまいります。

16ページをお願いします。

2本目の市民サービスの向上としては、市役所の手続きも以前と比べればオンラインでできることが増えましたが、行かなくてもよい市役所を目指すことで企業のビジネス環境向上にもつなげてまいります。また、窓口業務を効率化して、書かない、待たない窓口を目指すほか、デジタル技術を積極的に活用することによって、職員は企画立案や相談支援などの業務にシフトしていき、市民サービスの向上を図ってまいります。

17ページをお願いします。

3本目の行政事務の効率化としては、全庁的な業務改革、BPRを行ってAIやRPAの導入を進めていくほか、デジタル分野の職員採用にもさらに積極的に取り組み、人材の希少化や働き方の多様化が進む中で最適な職員構成を実現してまいります。

次に、18ページをお願いします。

18ページからは3つ目の課題、新たな大都市制度に向けた検討状況についてご紹介させていただきます。

現行の大都市制度としては、まず指定都市制度がありまして、義務教育や児童相談所、保健所など個別の事務ごとに事務配分の特例があって、それらは指定都市が担っておりますが、それでも県の権限が包括的、網羅的に指定都市に移譲されるわけではないため、いわゆる二重行政の課題が残るところとなっております。

次に、大阪都構想の関係で制度化された特別区設置制度がありますが、これは市を廃止して、東京23区のように特別区に再編するというものです。指定都市市長会では、新たな大都市制度として、戦後の一時期だけ存在した特別市制度を参考にしつつ、大都市と県の二重行政を解消して市に一元化する特別自治市制度、これはまだ制度化されておませんが、その実現に向けた議論を行っております。

19ページをお願いします。

これは単なるイメージ図ですけれども、国、県、市町村の3層構造を表したものでありまして、現場力と総合力を有する大都市については、特別自治市として地方行政の権限を

県から市に一元化する姿を描いております。これによって大都市で特に顕著に現れる課題、例えば新型コロナの感染拡大も含まれるかもしれませんが、そういった課題に素早くそして柔軟に対応することができるのではないかと考えております。また、図の中では連携の矢印を伸ばしておりますが、大都市だけでなく近隣市町村も含めた圏域全体としての活性化につなげるため、広域連携の在り方についてもセットで考えていく必要があると思っております。

20ページをお願いします。

この特別自治市制度のメリットを市民、県民、国民というマルチスケールでまとめております。

1点目の市民のメリットとしては、例えば平成29年に義務教育の権限が県から指定都市に移譲されたことできめ細やかな教育環境の実現につながりましたが、それと同様にまちづくりや産業といった分野でも市民サービスの向上につながることが期待されます。

2点目の県民のメリットとしては、これは岡山市が特に主張している点ではありますが、大都市の総合力が増すことで、一部の行政サービスを近隣市町村も含めた圏域単位で提供することも考えられるところであります。現在は連携中枢都市圏の取組を行っておりますが、広域連携をさらに進化させるため、圏域行政の法制化も国に提言しております。また、特別自治市制度や広域連携の反射的効果としては、県はそのほかの地域の補完事務などに重点化できるという点では、これは県にとってもメリットがあると捉えることもできます。

3点目の国民のメリットとしては、各地方ブロックの拠点となるべき大都市の総合力が増すことで東京一極集中から多極分散への転換が実現しますので、この大都市制度の見直しこそが真の地方創生につながり、我が国全体の活性化につながることが期待されます。

下の緑囲みの部分ですが、指定都市市長会では昨年11月にこの特別自治市制度の法制化を提言しております。かつての平成の地方分権改革では、行政関係者だけでなく、経済界や労働界なども巻き込んだ混声合唱の中で改革が進んだという経緯もありますので、なかなか一朝一夕に進むものではありませんが、現在国だけでなく経済界などに対しても働きかけを行っているところであります。

以上、要領を得ない説明で恐縮ですが、ご指摘やコメントをいただけるとありがたいと思っております。

私からは以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございました。

それでは、先ほど発言のご希望がございました前野委員さんから。防災・減災についてであろうと思いますが、よろしく願いいたします。

○前野委員 資料の10ページですが、浸水対策ということでポンプ場であるとか、そういった事業をどんどん進めているということは非常によいことだと思っております。ただ、ここではポンプ場の耐震対策などを書いていますけれど、例えばポンプ場が浸水したりすると配電盤がショートして機能しなくなるとかそういったこともありますので、そういったところも含めてぜひ確認してやっていただきたい。

もう一つ、このポンプ場ができたからといって、前回も言ったかもしれませんが、やはり久留米市ですかね、筑後川の例にありますように、本川の水位が上がるとポンプを稼働できなくなるといったこともありますので、そういった点は市民の方々にも、万全ではなくてそういったこともあるよということぜひ伝えていただきたいと思います。

それから、自主防災組織については、令和3年4月時点で94.1%ということで、これはすごいなと、感心しています。もうちょっとですので、ぜひ100%を目指していただきたいと思います。ただ、ここまで来るとやはり何が問題かということ、平成30年からするともう4年も経ってしまいましたし、何年か経つとやはりそういう防災意識も薄れてきますので、普段の避難訓練であるとかそういったところをぜひ今後も意識を高くやっていただきたい。今回、特にコロナということで感染対策も周知するということですが、ぜひ、分散避難ということも今後非常に重要になってくると思いますので、そういった点も含めて、普段からいざというときに備えて準備をしていただきたいと思います。

それともう一つ、ハザードマップの更新。これは最近やられたと思うんですけど、ぜひ周知をしっかりとっていただきたいと思います。実は岡山県の関係で県内、どことは言いませんけどある高校に行ったところ、校長さんがここは地震は危ないけど浸水は大丈夫だということをおっしゃっていたんですけど、よく見るとハザードマップには浸水被害もあるということを書いてあるので、そういった漏れがないようにぜひ周知していただきたいと思いました。

それから、もう一点は、道路の老朽化の件ですけど、我々の体もそうですけれど、やはり人間ドックじゃないですけど、そういった毎年繰り返すことで早め早めに老朽化を

防止していくと最終的に費用も多くなならないということになると思いますので、ぜひその点も、アメリカのほうですかね、つい最近落橋したという事例もありましたので、そういうことがないようにしていただきたいと思います。

以上です。

○阿部会長 はい、ありがとうございました。非常に具体的なご提案をいただきましてありがとうございました。

それでは、後半の議題も含めまして、まだご発言いただいていない委員さん方、何かご提案ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○杉山副会長 岡山市のデジタル化の推進について、少しご提案をさせていただけたらと思っております。この資料を見ていると、岡山市はコニカミノルタさんと提携されたということで、DXを推進するためには人材がやっぱり一番大切なんだろうと思っております。

実は、岡山には岡山大学とか県立大とか、情報工学の専門家を育成するところがあります。しかし、若い方なので経験値が不足するので、やっぱり一旦例えば東京などに出ていただいてしっかり経験をしていただいて、その人たちが帰ってきてくれたらと思います。しかし、先ほどからお話があるようになかなか帰ってきません。ではどうしたらいいのか。以前に私が思っていたのは、海外の情報工学系の留学生に少し補助金、奨学金か何かを出すといいのではないかと思ったのですが、コロナ禍でそれも不可能です。岡山市がデジタル化を進めていく上で一番のネックは何かっていうと、やっぱり人材だろうと思えます。

私はあまり岡山市などの状況を全部把握しているわけではないんですけども、例えばある高校の校長先生はとてもデジタル化というかDXが得意な方がいらっしゃいます。必ずしも校長先生全てがDXにすごく優れているというわけではないですが、この方がご定年になられて、教育分野から離れて何か特別職のような形で岡山市に貢献されるようなことも一つお考えいただければよいと思います。専門分野で言うと農業分野とか医療とかです。

ある意味では岡山市の現在の雇用制度をもう少し柔軟にさせていただいて、その中で優秀なデジタル人材を拾い集めるという努力をしていただいて、ぜひ岡山市のデジタル化を推

進していただけたらと思います。何かDX人材についてちゃんと手当てしているということであれば、そういうお考えもお聞かせいただけたらと思います。とにかくDXは人材が最大の課題だろうと思っていますので、その点についてぜひお考えをお聞かせいただけたらと思います。

○阿部会長 はい、ありがとうございます。先ほど田中委員さんのほうからもご発言ございましたけれども、市から何かDXの件でご発言いただくことはございますでしょうか。お願いいたします。

○大森市長 杉山先生がおっしゃるとおりですよ。もう人材に尽きるわけですが、岡山市としてこういうことをやっているということを少しご紹介したいと思います。それで足りてると思っているわけではないんですけども。

まず1つは、氷河期世代の採用を2年続けてやったんですね。これはやはり岡山に戻ってきたい、ないしは新たに住みたいという人もいるんですけど、たしか最初が三桁の倍率の応募だったんです。2回目も相当高かった。その中の人材としてやはりDXの関係者がおられたことは事実であります。

それから、もう一つ面白い仕組みを今やっているのですが、例えば東京でデジタルの仕事をしているという人が、その仕事を辞めてまでこっちへ帰ってくるってなかなか勇気が要りますよね。したがって、兼業でやってもらう、週何日とか月何日とかそういう兼業でやってもらうというのをやっています、これは昨年からはじめたところなんです、これもデジタル化の関係者がおられたと思います。

新しいことは進めているんですが、日本全国DXの人材不足が叫ばれている中、そう簡単にいく話ではないと思います。今の杉山先生の高校の校長先生の例についても、うまくタッチできればそういうこともあり得るんだと、私は広く考えてやればいいんじゃないかなと思っています。

以上です。

○原田委員 私のほうからは、特別自治市制度について。この考え方は非常に合理的な考え方であって、基本的には大賛成であります。二重行政の廃止ということは、やはり全体で見てもコストの削減につながりますし、全体最適、これにもつながっていくと。それか

ら、特にコストの面だけではなくて、やはりコロナのお話でもありましたけども、非常に不確実性が強まるような時代においては、やはり現場でないと分からないこと、そして正しい判断がつかないことが非常に多くなると思います。そういう意味でも、行政においても例えば雇用の施策であったり学校教育であったりなどはより現場主義のほうがいいのではないかと、そういうことによってメリットであるサービスの向上にもつながると思いますし、とにかくスピードが要請をされるということが非常に多いので、そういう意味においてはこういう制度というのは非常に有効に機能するのではないかと思います。

たまたまですけれども、我々銀行もちょうど昨年6月から地区本部制というのを導入いたしました。支店が150店舗ほどあるんですけども、それを7つの地区本部に分けて、それぞれに地区本部長を設けて権限を移譲していったということを今やっております。これもやはり現場のニーズが多様化して、非常に本部で中央集権でやると判断を間違ったり、それからスピードが遅くなったりとそういうようなこともありますので、そういうことを民間でもやっているようなことですので、ご提言も見させていただきましたけども、ぜひ進めていただけたらと思います。

○村中委員 8ページの待機児数ですが、5年間で見事に95%以上解消され、その実行力に大変感動しております。それからさらに、採用困難な保育士を900人も確保しておられ、あと少しで100%を達成という実績にも感動しております。

ただそうなりますと、次には保護者様が保育園を選ぶ時代がやって来るのではないかと、思います。選べる時代になったときに、大規模園と小規模園、その他様々な特色をもった保育施設間の格差の調整が必要になってくるのではないかと、それが次の課題ではないかと考えます。

それと、近年の保護者様の中には、育児困難感を抱えた方が増えてきているように感じております。経済的な理由や家族内の問題を抱えている場合ばかりではなく、条件的に恵まれていると思われる保護者様の中にも、育児に悩む方が少なくないのが現状です。親が自分の子育てに困っていると感じた子どもは、自分にも親にも信頼感を築くことが出来ず、不安感から親の気を引く行動に出て、それがさらに親の育児不安感の原因になるケース、また中には育てにくい気質をもった子どもの育児に悩む保護者様に対して、育児を支援する保育士の能力が以前にも増して求められています。

それにはやはり保育士の資質の向上が喫緊の課題であり、新たな900人の方々の中には

しばらく現場を離れた方もおられますし、新卒の保育士さんを含めて、資質向上のための積極的な研修がとても大切かと思えます。研修をほとんど実施していない園や、毎月一回は必ず実施している園等、かなりの格差があるように感じておりますので、そこを是正していくということが次の課題になるかと思えます。

○阿部会長 はい、ありがとうございました。

誠に申し訳ございませんけど、予定の時間が来ておりますので、このあたりで議事を締めさせていただきたいと思えます。いろいろと具体的な有用なご発言でありました。ありがとうございました。委員さん方からの発言内容を参考にして市政を進めていただきたいというふうに思えます。

これで議事を終わらせていただきたいと思えますが、その他事務局から何かございますでしょうか。

○事務局 特にございません。

○阿部会長 はい。それでは、これで本日予定しておりました案件は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

6 閉会

○司会 それでは、閉会に当たりまして、大森市長からご挨拶申し上げます。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。ご意見を参考にさせていただき、岡山市の市政に活かさせていただきたいと思えます。

ただ1点、原田委員からの最後の意見に対して、大きな制度論の話でもございますから、一言お話を申し上げたいと思えます。

我が国は47の都道府県であります。その制度ができたのが明治22年であります。その際に市町村の数は7万を超えておりました。それから、市町村合併をずっと繰り返してきております。今1,700ぐらいのオーダーになっているわけでありましてけれども、その中でも政令市は20ございます。横浜から静岡まででありますけれども、そういう議論とともに

